奥州街道文化財マップ

奥州街道全行程

史跡聖寿寺館跡案内所

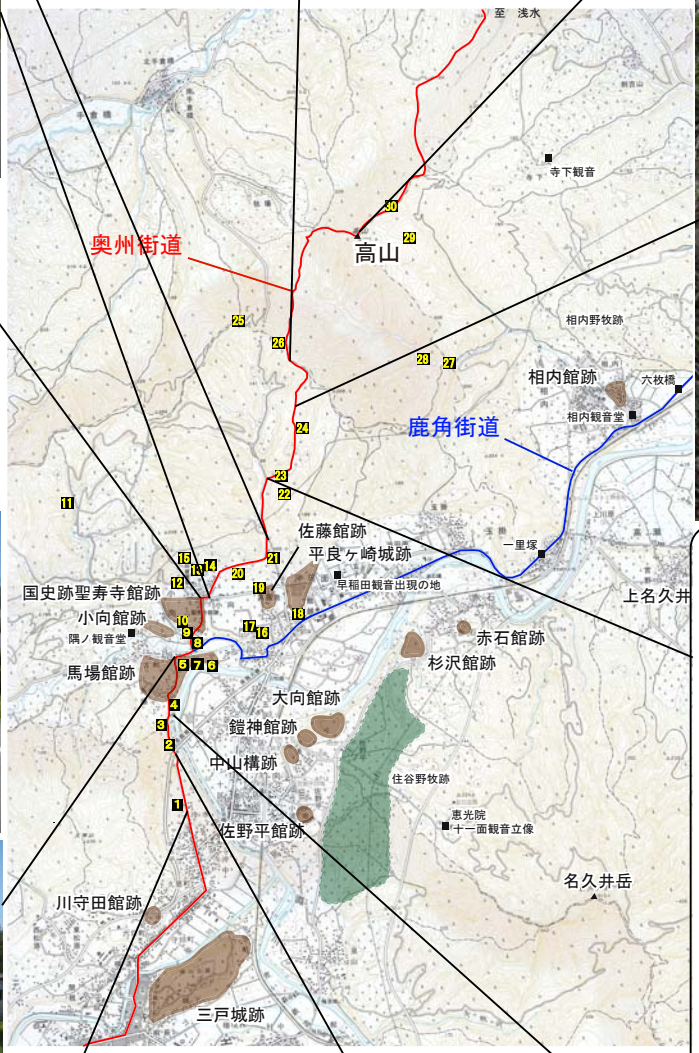
至　浅水
相内野（南部九牧の一つ）
寺下観音
高山
車輌通行困難区間
奥州街道
鹿角街道
相内館跡
六枚橋
相内観音堂
佐藤館跡
平良ヶ崎城跡
早稲田観音出現の地
一里塚
上名久井城跡
国史跡聖寿寺館跡
小向館跡
隅ノ観音堂
赤石館跡
杉沢館跡
馬場館跡
大向館跡（鎧神館跡）
蝦夷館跡
中山構跡
住谷野（南部九牧の一つ）
恵光院
十一面観音立像
佐野平館跡
名久井岳
川守田館跡
三戸城跡

城館跡　牧跡　文化財

0　1,000m

発　行　南部町教育委員会　南部町大字沖田面字沖中46　TEL0179-34-2132　FAX0179-34-3127
発行日　平成30年6月27日

奥州街道と分岐点


至 浅水
寺下観音
奥州街道
高山
相内野牧跡
相内館跡
六枚橋
相内観音堂
鹿角街道
佐藤館跡
平良ヶ崎城跡
一里塚
早稲田観音出現の地
上名久井
国史跡聖寿寺館跡
小向館跡
隅ノ観音堂
赤石館跡
杉沢館跡
馬場館跡
大向館跡
鎧神館跡
中山構跡
住谷野牧跡
恵光院
十一面観音立像
佐野平館跡
名久井岳
川守田館跡
三戸城跡
城館跡
牧跡
文化財
0
1,000m

奥州街道文化財マップの説明

1　唐馬の碑

馬種改良に関心があった八代将軍吉宗から南部藩に下賜されたペルシャ産の馬。南部藩九牧の一つ住谷野(三戸代官所管内)に放たれ、春砂 (ペルシャ) と呼ばれ種馬に用いられたが、9 歳で死に、御野馬別当石井新右衛門 (号は玉葉) は唐馬 (外国産の馬) 追善のため、馬頭観世尊としてまつり、追喜の句 2 句を添えて建碑した。外国馬の記念供養碑としては貴重な史料。

2　府金坂

3　地獄澤

この沢が三戸町と南部町の境界になっている。昔は土橋が架かっていたという。『三戸通書上帳』には橋の長さ弐間半、川守田村と小向村の境とある。近くに馬場宗家の屋敷神『府金稲荷』がある。馬場館跡の館神か？

4　一里塚

現在は削平されてしまったが、明治時代まであったという。

5　馬場坂

6　本三戸八幡宮

南部氏旧地の八幡宮として歴代藩主の崇敬を集めてきた社である。慶長 18 年（1613）に南部 27 代利直によって再建され、寛永 4 年（1627）には社領 18 石を給され、延宝 5 年には 22 石に加増された。

7　県重宝　南部安信の宝篋印塔

南部 23 代安信は、1525 年（大永 5）4 月 5 日没し、行年 33 歳。弟の石川高信を津軽に派遣し、勢力を拡大した。塔の笠部に「悦山」「怡公」、基礎に「廿三代太守右馬允安信公」と刻まれています。石材は、岩手県二戸市石切所産の石英安山岩と推定され、南部氏歴代では最古のものと推定されます。高さ 87 ㎝、基礎の幅は 35.5 ㎝。

8　追分石

奥州街道と鹿角街道との合流点。

9　明治天皇御休憩所

明治 9 年 7 月 11 日に和泉第次郎屋敷で休憩される。随行した岸田吟香という新聞記者が次のような記事を書いている。『八時ごろ小向村の和泉第次郎かたにて、二十分斗りの御小休あらせらる。此処に鳳輦を拝み居りし見物の十七、八と覚しき付近の娘と見えて、（中略）面貌の美しきこと実に絶世の美人とも称すべき程なりし。供奉の月卿雲客（殿上人）も暫し目を注がれし由なりと下さままでの評判なれども惜しむべし吟香は愚かにも見落としたりき』

10　若宮八幡宮

創建の時期は定かではないが、夭逝した南部 25 代晴継が祭られた神社として伝えられている。現在保存されている棟札は 5 枚あり、最も古いのは安永 7 年（1778）のものである。

11　鱒沢沼の伝説

時代は不明だが、聖寿寺館を造りしも堀には一滴の水もなかった。そこで殿様は鱒沢沼の龍神に「もし堀に水を充たしてくれたなら娘を差上げます」とお祈りしたところ、一夜にして堀に水を湛えてくれた。そこで殿様は龍神の約束を果たすため長女に龍神にお嫁に行くように勧めたが、長女は断り、三女が代わりに行くことになった。龍神は三女をさらって沼に沈みたりという。

12　国重要文化財 南部利康霊屋

南部 27 代利直の四男利康の霊屋。三戸城内に邸宅を構えて常住し、利直の留守には代わって政務を執るなど、父利直の期待は世継ぎの重直より大きかったといわれる。寛永八年（1631）11 月 21 日に病のため 24 歳で逝去した。霊屋は桃山様式による豪華絢爛な霊廟建築の一端を示す貴重なものである。

13　県重宝　南部利直霊屋

南部 27 代利直の霊屋。利直は南部 26 代信直の長子として天正 4 年（1576）田子城で誕生した。17 歳の時父に従って小田原参陣し、豊臣秀吉に拝謁して以来、九戸の乱、和賀忠親の乱を鎮め、上杉景勝の挙兵を打ち、大阪の陣では徳川方について家康・秀忠の信任を受けた。南部藩の基礎を確立した名君であると云われている。寛永 9 年（1632）8 月 18 日に逝去した。

14　県重宝　南部信直夫妻の墓石

天文 15 年（1546）南部 22 代政康の次男、石川高信の庶長子として生まれる。一時、24 代晴政の養嗣子なるが、25 代晴継が生まれたことから次第に晴政に疎まれるようになる。天正 10 年（1582）、晴継の夭逝にともない、三戸南部氏の家督を継ぎ、小田原参陣、九戸の乱を経て近世南部藩の基礎を築く。

15　寺院跡？

聖寿寺・東禅寺・三光庵があったという伝承がある。標高約 130mと高地であるが水が湧き、池がある。

16　早稲田観音堂

創建年代は不明であるが、本尊は沖田面の早稲田より出土したもの。奥州南部糠部三十三番の二十三番の札所。

奥州街道文化財マップの説明

17　恵海上人五輪塔

永福寺三十世恵海上人は、盛岡城の築城とともに、お城の鬼門鎮護のため移された盛岡永福寺の開祖にあたります。
　恵海上人は、新しく城下町を形成するにあたって、胎蔵界曼陀羅によって寺院を配置することを建言した、といわれています。1617 年（元和 3）5 月 19 日入寂。

18　町指定 塚ノ越古塚

南部氏累代の墓を守ってきた八幡宮別当佐々木家が、南部氏の墓として代々供養してきたことから、南部氏の御塚といわれています。大正までは 5 基ありましたが、道路の拡幅工事の際に 3 基が取り崩され現在は 2 基残っています。

19　はだか坂

何代目の殿様か定かではないが、手代森の麓（南側）に妾を住まわせていた。夏の暑い日にもろ肌を脱いで汗を拭きながら、この坂を上ったことから『はだか坂』と云われている。

20　手代森（姥懐山）

頂上付近に虚空蔵様と馬頭観音様の祠がある。奥州街道は北麓を東西に通る。

21　伝 木戸口

22　城館の防御施設か？

宮沢地区の南側の尾根で人為的な施設が残っている。その南には平良ヶ崎城跡があり、城の防御施設と考えられる。

23　宮沢地区

24　長坂

25　峯の薬師堂

峯の薬師堂に至る尾根は江戸時代末期には『薬師尾根』あるいは『浅水尾根』と呼ばれたらしく、三戸通と五戸通の境界となっていた。

26　一里塚

27　根の姥の滝

10mほどの落差がある。安達の婆伝説にちなんで出刃洗いの滝とも呼ばれる。

28　安達の婆伝説

水田の中に根姥大明神の祠がある。

29　町指定 しだれ栗

逆さ栗ともいう。安達の婆が杖を逆さに挿したという杖立て伝説が伝わっている。

30　水無坂

明治天皇の東北巡幸

明治天皇は南部町に 2 度来ている。1 回目は明治 9 年で三戸から奥州街道を馬車で北上し、馬場を経て小向の和泉宅で小休止、正寿寺を経て五戸に向かった。この時、要職にあった明治維新の立役者である岩倉具視、大久保利通、木戸孝允（桂小五郎）が随行している。2 回目は明治 14 年、総勢 352 名の大行列で左大臣有栖川宮、参議大隈重信、内務卿松方正義、報知新聞記者原敬らをはじめそうそうたる面々が随行した。岩手県から青森県に入った一行は沖田面谷坂源吉方でご小休。剣吉の出町喜八郎方で昼食。そして、苫米地の夏堀源吉宅で小休止して、八戸経由で青森市方面へ向かった。

メモ